

麦作情報 No. 2

令和4年2月15日
西松浦農業改良普及センター

1. 気象概況

月	半旬	平均気温		最高気温		最低気温		降水量		日照時間	
		平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 mm	本年値 mm	平年値 時間	本年値 時間
1月	4	5.3	4.7	9.5	8.4	1.2	-0.6	14.6	1.0	14.6	26.0
	5	5.1	6.7	9.4	11.0	0.9	1.8	15.3	38.0	15.7	15.9
	6	5.1	6.1	9.6	10.9	0.8	2.3	16.8	0.0	21.2	33.7
2月	1	5.3	4.1	9.9	7.8	0.9	-0.2	12.2	0.0	19.1	12.2
	2	5.7	5.6	10.4	9.3	1.1	2.1	13.1	0.5	20.0	19.2
	3	6.2	—	10.9	—	1.5	—	15.5	—	20.7	—

- 平均気温は、1月4半旬は0.6℃低く、5～6半旬は1～1.6℃高く推移した。2月1～2半旬は1.2℃低く推移した。
- 降水量は、1月23日に38mmのまとまった降雨があり、その後は降雨が少なく朝露やわずかな雪により圃場表面が湿る程度にとどまった。また、2月13日に6.5mmの降雨があったもの、長時間の滞水等は見られなかった。
- 日照時間は、1月は平年より多照傾向で推移したが、2月に入ると曇天が続き、寡照傾向で推移している。

2. 生育概況

- 播種以降、気温は平年並み～やや低く推移しているため、生育は平年並み～やや遅くなっている。
- 2月以降も、気温が低く、乾燥状態が続いているため、生育はやや緩やかに進んでいる。
- 大麦網斑病は、12月27日に煌二条およびサチホゴールデンで確認されており、現在目立った進展はみられていないが、今後気温の上昇や降雨により発生が助長される可能性があるため注意する。

《麦類の生育状況（2月15日時点）》

- ① 11月18日頃に播種された圃場では、節間伸長開始期、幼穂長約2mm
- ② 11月27日頃に播種された圃場では、現在本葉6葉目が展開中（5葉期）、幼穂長約1.5mm
- ③ 12月上旬頃に播種された圃場では、現在本葉4葉目が展開中（3葉期）

3. 今後の管理

1) 肥培管理

- 播種時期により管理が異なるため、下記を参照にする。
※地力がある圃場（堆肥連用田など、令和3年産麦で倒伏した圃場等）では、麦の生育量および葉色から判断して施用量を減じるなど調整する。

① 11月18日頃播種

- 節間伸長期を迎えており、まもなく茎立ち期を迎える。
2月中旬から下旬をめどに穂肥の施用を行う。
※ハーモニー75DF 水和剤は、散布晩限を迎えているため使用しない。

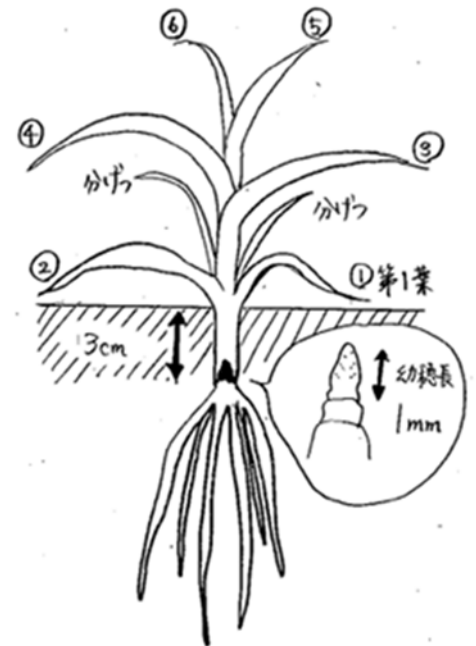
② 11月27日頃播種

- 幼穂形成始期を迎えている。
麦踏は今月末までとし、その後は土入れ中心の管理とする。
2月下旬から3月上旬を目途に穂肥を施用する。
※まもなくハーモニー75DF 水和剤の散布晩限となる。散布を予定している場合は、速やかに実施する。

④ 12月上旬播種

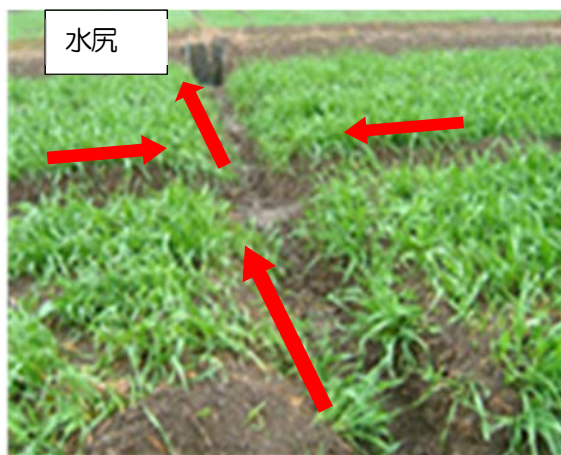
- 3~5葉期を迎えている。まだ追肥Ⅰを行っていない圃場は速やかに実施する。

幼穂形成始期（麦 5.5L~6.0L 頃）



2) 排水対策

- 麦類の発根力は、最高分けつ期~節間伸長期（概ね7~8葉期頃）が最も高いとされている。根の活力維持のためにも、排水対策を確実に行う。



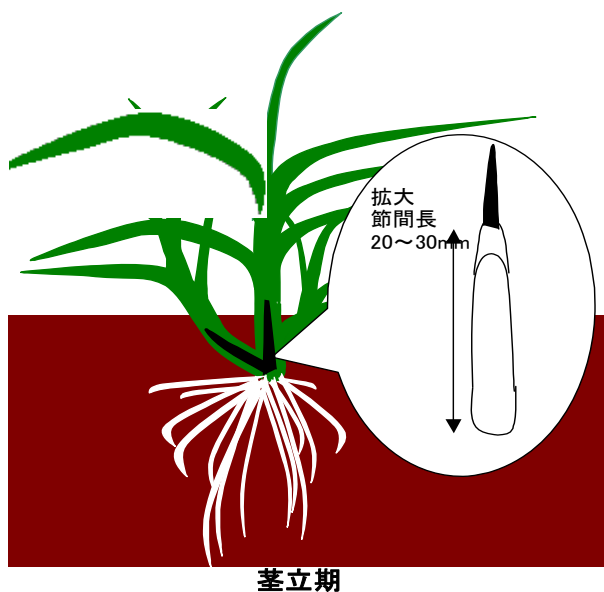
- 2月以降は、降水量が多くなる場合があるため、早めに額縁明渠や水尻へつなぐ溝の整備を行う。
- 溝（畦間）をまくら地までとおし、排水力を高める。
- 暗渠排水が整備されている圃場では、コルゲート管の栓が確実に開いているか確認を行う。

排水溝の整備の実施により、麦の根の活力維持に繋げる！！

3) 麦踏み、土入れ

- 必ず圃場が乾燥した状態（畝間が白乾している状態）で、麦踏み（3葉期以降から）や土入れ（5葉期以降から）を実施する。
- 土壤水分が高い状態で麦踏みを行うと、土がしまり湿害による根痛みを起し、マイナス要因となる。（土を手で握り、湿った状態であれば、無理な麦踏みは避ける。）
- 草丈が30cm 以上になると、麦踏みを行うと完全に立ち上がりきれず、その後倒伏しやすくなるため麦踏みは行なわず、土入れ中心の管理を行う。

• 麦踏み、土入れの効果については、麦作情報 No.1 を参照。



【節間伸長始期】

茎の節間が5mmとなったとき（葉齢は7葉期）。
節間が伸長し、幼穂が地上部近くに上がってくる。

【茎立ち期】

節間伸長期から2週間程度経過した時で、節間が2cmに達し、幼穂が地上部に上がってきたとき。

この時期になると麦踏はできない。

幼穂凍死の危険が高くなる。

茎立ちが早いときなどは、幼穂保護のため土入れを実施する。

4) 雑草防除

- 水稲刈り取り後雑草が繁茂していた圃場、耕起前の防除が不十分であった圃場では、スズメノテッポウ、カズノコグサ、タデ類、トゲミノキツネノボタンなどの発生が散見される。
- 土入れによる雑草防除を実施するとともに、こまめに圃場の雑草発生状況を把握し、除草剤の処理時期を逸さないよう対策を徹底する。
- 除草剤効果を保つため、雨前を避けて散布する。（天気予報を確認してください）
- カラスノエンドウは収穫時に混入する危険性が高いため、アクチノール乳剤による防除を徹底する。
- 「ハーモニー75DF水和剤」の使用時期は「播種後～節間伸長前まで」なので、使用の際は麦の生育状況に注意する。カズノコグサの防除は播種直後処理剤と「ハーモニー75DF水和剤」（カズノコグサが1～3葉期までに）との体系処理で行う。

※カズノコグサとスズメノテッポウの識別については、麦作情報 No.1 を参照。

★除草剤散布後は、以下のことに注意する★

- ①「麦踏み」は、除草剤散布後に薬剤の影響で葉が黄色くなっている場合、麦へのダメージが大きいため、散布後1週間は控える。同様の理由で、麦踏み直後の除草剤の散布も控える。
- ②「土入れ」を、除草剤散布後すぐ行うと、雑草の蒸散作用が抑制され有効成分の根部吸収が妨げられるので散布後1週間は土入れを控える。（特にステージの進んだ雑草の場合は十分に間隔をあける）

○播種後除草剤が散布できていない圃場や、雑草の発生がみられる圃場では、除草剤の処理時期を逸しないように早めに茎葉処理剤を施用する。

農薬名	効果のある雑草	使用量	希釈水量	使用時期	総使用回数	使用上の注意事項
ハーモニー75DF水和剤	イネ科雑草 ・双メテッポウ ・加ノグサ 広葉雑草 ・ヤムグラ ・アサ ・ハバ ・トゲミノキ ツネノボタン	5～10g/10a	100L/10a	播種後～節間伸長前 ※カズノコグサに対しては、麦1葉期～節間伸長前	1回以内	<ul style="list-style-type: none"> 播種後にハーモニー細粒剤 F を散布された圃場では使用できません。 薬害が生じやすいので周辺作物への飛散に注意。 使用器具の洗浄を怠らぬし、他作物との併用はしない。 双メテッポウ、加ノグサには効果が弱い（抑制するが枯死しない）
アクチノール乳剤	広葉雑草 ・ヤムグラ ・加ノグサ ※イネ科雑草には効果がない	100～200ml/10a	70～100L/10a	穂ばらみ期まで (雑草生育初期)	2回以内	<ul style="list-style-type: none"> 広葉雑草多発田に使用し、ヤムグラ、加ノグサに効果が高い。 湿度に左右されず使用できる。 散布後、20日程度で枯死。 接触剤なので、必ず雑草の茎葉に散布する。 気温が高い日の散布は薬害が生じるので注意が必要。

6) 鳥獣害対策（カモによる食害）・酸性土壌による障害

鳥獣被害対策および酸性土壌については、麦作情報 No.1 を参照（西松浦農業改良普及センターHPに掲載しています）。

R4年産麦類生育期間気象グラフ

アメダス観測値 (伊万里)

西松浦農業改良普及センター

